

福岡県水道広域化推進プラン 概要版

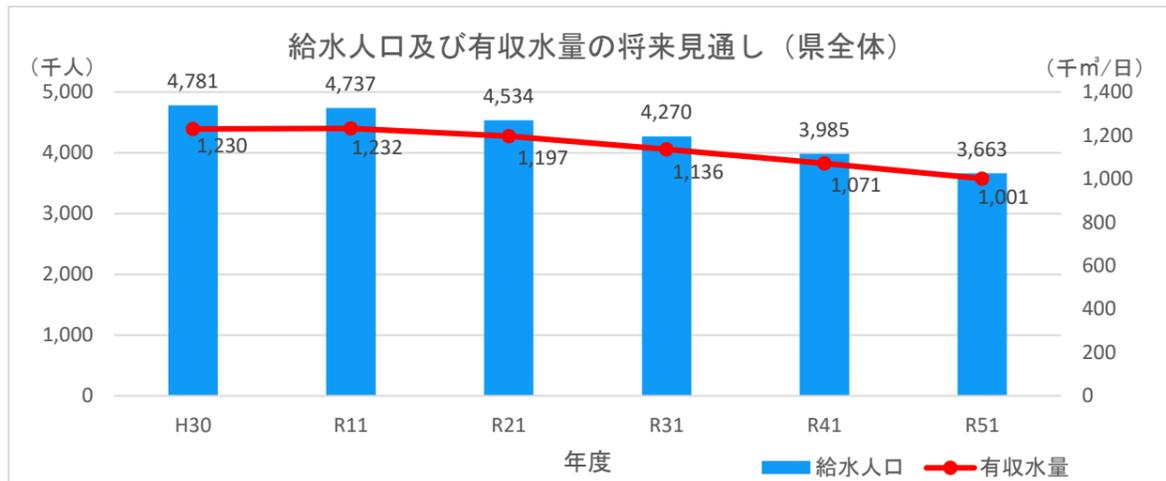
1 福岡県水道広域化推進プランの趣旨

- 人口減少や施設の老朽化等に伴い、県内水道事業の経営環境は今後厳しさを増すことが予想されており、水道事業の経営基盤の強化を図るため、水道事業の広域化の推進が必要である。
- 国は、都道府県に対し、令和4年度末までに「水道広域化推進プラン」の策定を要請している。
- 県は、水道事業の今後の広域化に係る推進方針等を示す「福岡県水道広域化推進プラン」を策定する。

2 現状、将来見通し及び課題整理

(1) 現状と将来見通し

- 給水人口は平成30年度に対し、令和51年度には3,663千人と76.6%まで減少し、併せて有収水量は平成30年度に対し、令和51年度には1,001千m³/日と81.4%まで減少する見込み。
- 有収水量の減少等に伴い、給水原価は平成30年度に対し、令和51年度には30.3%増加する見込み。
- 職員の年齢構成は、40歳以上の職員が全職員の65.7%と比較的年齢が高い職員配置となっている。



(2) 課題整理

現状、将来見通しを踏まえ、水道事業における県全体の課題について「資金」「物的資源」「人的資源」の観点から整理を行った。

「資金」の課題

- ・ 給水人口の減少に伴う有収水量の減少、給水原価の増加等により、経常費用を賄う給水収益の確保と費用削減のバランスをどのようにとっていくかが課題となる。

「物的資源」の課題

- ・ 有収水量の減少に伴い、今後の水需要に見合った施設規模の最適化を計画的に進めていけるかが課題となる。

「人的資源」の課題

- ・ 40歳以上の職員の割合が高く、将来的に水道事業を支える職員の人材不足といった課題に直面する可能性がある。

3 広域化のシミュレーション

(1) 広域化パターンの設定

県内の水道事業の実態を踏まえ、広域化パターン（7パターン）を設定し、「施設の共同設置・共同利用」、「事務の広域的処理」のシミュレーションを行った。
※シミュレーションについては、一定の条件に基づき広域化の効果を検証したものである。

(2) シミュレーションの内容

① 施設の共同設置・共同利用（4パターン）

浄水場を更新する場合と浄水場を廃止し用水供給を受ける場合等における費用を比較検討したもの。

構成事業体	シミュレーション概要
北九州市、行橋市、苅田町	・浄水施設を一部廃止し、水道用水供給へ転換する場合をシミュレーション →水道用水供給料金は発生するが、施設更新費や維持管理費等が抑制されることなどにより、収支改善効果が見込まれる結果となった。
北九州市、中間市、鞍手町	・浄水施設を廃止し、水道用水供給へ転換する場合をシミュレーション →イニシャルコストの削減効果が見込まれる結果となった。
朝倉市、福岡県南広域水道企業団	・2つの浄水場を1つに集約する場合をシミュレーション →イニシャルコストの削減効果は見込まれない結果となったが、より詳細な検討により効果が得られる可能性あり。

② 事務の広域的処理（3パターン）

営業系業務等について現状の業務形態を継続した場合と共同化した場合の費用比較、料金等システムを単独発注する場合と共同発注する場合の費用を比較検討したもの。

構成事業体	シミュレーション概要
豊前市、吉富町、上毛町、築上町	・営業系業務等及び各業務システムを共同化する場合をシミュレーション →人件費や委託費の削減効果やシステムの導入費用及び運用費用の削減効果が見込まれる結果となった。
久留米市、大木町、三井水道企業団	
香春町、添田町、大任町、赤村	

4 今後の広域化に係る推進方針等

広域化の推進方針

- シミュレーションの結果に基づき広域化を推進する。
- すべての事業者に広域化の効果がある、より良い広域化を実現する。
- 「できることから」広域化を推進する。
- 将来的には、4圏域を基本とした、地域に即したより事業効果の高い広域化を目指す。
- 水道ビジョンの方策と併せて広域化を推進する。

当面の取組内容

- シミュレーション別の広域化に向けた検討
シミュレーション別に検討の場を設け、具体的な検討を実施する。
- 圏域別の広域化に向けた検討
それぞれの水道事業者の状況を踏まえながら、広域化について検討を行う場を圏域別に設け、広域化の実現に向けた協議を実施する。